

発行所 カトリック長崎大司教区広報委員会
下 寄 英 知
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095(843)3869 FAX 095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
印刷所 株式会社 藤 木 博 英 社
〒850-0852 長崎市万屋町5-13
TEL 095(821)2146 FAX 095(821)2148



広島教区に新司教 前田万葉司教 叙階式

9月23日、前田万葉新司教が広島教区カテドラル世界平和記念聖堂(職町教会)で前任者の三末篤實司教によって叙階され、司教座に着座した。叙階式には長崎からも多くの司祭・修道者・信徒が駆け付け、前田司教の新たな船出と広島教区のますますの発展を共に祈った。

説教は高見三司教が担当し、司教と司祭、信徒の交わりを説き、三末司教への感謝とともに、新司教を励ました。叙階後のあいさつで前



田司教は、「漁をするに、も、獲る魚や漁場によって網を変える。広島教区での宣教においても、時

代や場所などの環境に応じて、宣教の方法も新たにしていく必要がある。前任の司教さまの『平和

ことによつて(前田司教のモットー)は『仕えられなければならない、仕えるために』、宣教にあたり

たい」と抱負を語った。叙階式に参加した長崎出身で広島教区在住の信徒は、小教区報で前田新司教の特集を組むなど、

長崎から来られる新司教の叙階に大喜びだった。一方で、佐世保から駆け付けた信徒に感想を聞く

諸活動部門 第4期活動計画 冊子完成

教会と社会の福音化を

こつた東日本大震災の被災者の体験と、かつての宗教弾圧に共通する、愛する家族を失うという



9月4日、「やろうでみんな」で復活をテーマに大村殉教祭が大村市民会館で行われ、約1000人が参加した。

ミサに先立ち、今年起

目指して始まった教区諸活動部門の取り組みも第4期を迎え、すでに新体制がスタートしているが、このたびその活動計画の

冊子が出来上がった。これによって活動計画が広く知られ、活発化するこ

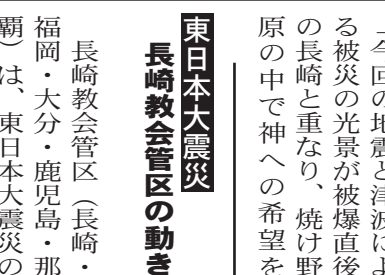


教師が持つ強い信仰は、現代のわたしたちが受け継ぐものとして残してく

説教の中で高見三司教は、「小教区は家族であり、信者は兄弟・姉妹。神さまへの愛とともに家族の絆は人間の持つ

8月22〜29日、開設に

長崎教会管区(長崎・福岡・大分・鹿児島・那覇)は、東日本大震災の被災地支援を行うポランテア活動の拠点として

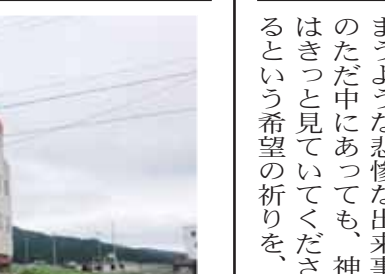


責任者・古木真理一神父とスタッフ、ポランテアア計7人が現地を訪れ、長崎教会管区のベースキャンプとなる「寿ビジネスホテル」内の

整備や、釜石ベースキャンプでのポランテア活

サポーターの実動

に向けて長崎から長崎教区

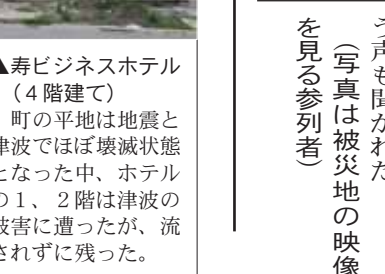


責任者・古木真理一神父とスタッフ、ポランテアア計7人が現地を訪れ、長崎教会管区のベースキャンプとなる「寿ビジネスホテル」内の

整備や、釜石ベースキャンプでのポランテア活

に向けて長崎から長崎教区

サポーターの実動

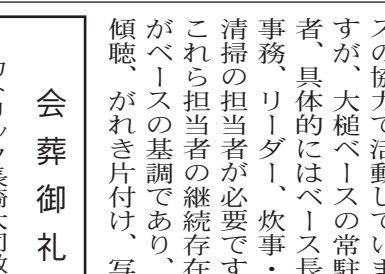


責任者・古木真理一神父とスタッフ、ポランテアア計7人が現地を訪れ、長崎教会管区のベースキャンプとなる「寿ビジネスホテル」内の

整備や、釜石ベースキャンプでのポランテア活

に向けて長崎から長崎教区

サポーターの実動

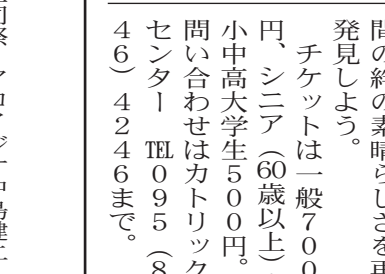


責任者・古木真理一神父とスタッフ、ポランテアア計7人が現地を訪れ、長崎教会管区のベースキャンプとなる「寿ビジネスホテル」内の

整備や、釜石ベースキャンプでのポランテア活

に向けて長崎から長崎教区

サポーターの実動

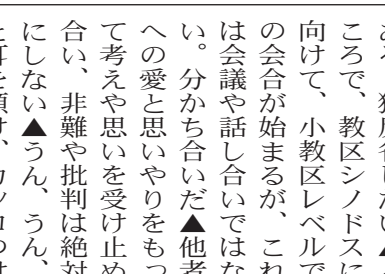


責任者・古木真理一神父とスタッフ、ポランテアア計7人が現地を訪れ、長崎教会管区のベースキャンプとなる「寿ビジネスホテル」内の

整備や、釜石ベースキャンプでのポランテア活

に向けて長崎から長崎教区

サポーターの実動



責任者・古木真理一神父とスタッフ、ポランテアア計7人が現地を訪れ、長崎教会管区のベースキャンプとなる「寿ビジネスホテル」内の

整備や、釜石ベースキャンプでのポランテア活

被災地を思い、カトリックとプロテスタントが合同礼拝

東日本大震災発生から半年目にあたる9月11日(日)、死者への追悼、被災者への慰め、被災地の再生を求めてキリスト教合同礼拝が中町教会で行われ、カトリック、プロ

説教を担当した森島豊牧師(日本キリスト教団長崎平和記念教会)は、「今回の地震と津波による被災の光景が被災直後の長崎と重なり、焼け野原の中で神への希望を

語った永井隆博士の言葉を思い起こした。『ただでさえ見えない神が、さ

らに分からなくなつてし

長崎から届けよう」と呼び掛けた。

カトリックとプロテスタント諸教会との交流をエキュメニズム運動というが、このような形で共に祈るひとときを共有したことに、各担当者からは感謝の言葉が聞かれた。

参加した信徒からは「共に心を一つにして被災者のために祈るという体験ができてうれしかった」という声とともに、「カトリックの神父さまたちの参加がもたらした

たらよかったの」という声も聞かれた。

古木師は、「大槌ベースとなるビジネスホテルはいわば九州沖縄5教区の拠点。ポランテアを最大40人迎えることができ

ます。現在、釜石ベースの協力で活動していき

すが、大槌ベースの常駐者、具体的にはベース長

事務、リーダー、炊事・清掃の担当が必要で

問合わせはカトリックセンター TEL 095(846)4246まで。

カトリック長崎大司教区司祭・アロイジオ中島健二神父の逝去につきましては早速、ご丁寧な弔問・弔電ならびにご香典を賜り、葬儀の際にはご会葬・献花の弔意に接しましたうえ、各教会・修道院で故人のために祈りいただき誠にありがたく御礼申し上げます。

一々拝眉のうえ御礼申し上げます。紙上をもつて代えさせていただきます。

二〇一一年九月

カトリック長崎大司教区大司教 高見 三

カトリック長崎大司教区大司教 高見 三

カトリック長崎大司教区大司教 高見 三

カトリック長崎大司教区大司教 高見 三

高校生のための 沖縄平和学習

沖縄で平和を考えよう
と、教区平和推進委員会
(岩村知彦委員長) 企画
による沖縄平和学習が8
月29～30日に行われた。
これは永井隆平和基金
助成事業として初めて実
施されたもので、今回は
長崎県内在住の高校生が
応募対象。高校生2人と
司祭、関係者ら総勢7人
が沖縄を訪れ学びを深め
た。

29日は摩文仁の丘や平
和の礎、ひめゆりの塔な
どを見学、夜は小緑教会
(那覇市)で地元の高校

生、青年会、信者らと分
かち合いをし、交流した。
翌30日は普天間基地や



名護市辺野古にて

参加した高校生は感想
を次のように語った。
『長崎には原爆が落ち、
沖縄では地上戦があっ
たのでたくさんの方が
亡くなった。沖縄は
長崎よりひどかつた
のではなかった。交
流会では地元の方々
と沖縄のことについて
分かち合いができ、
よかった。戦争はよ
くないと思つた。こ
れからは身近な平和
と活動に取り組んで
いきたいです。』(太田
輝之さん/城山、高2)

『沖縄には長崎や広島
と違つた別の悲惨さ
がある。』(永井隆平和
基金 永井隆博士の「如
己愛人」の精神に倣い、
21世紀の教会を担う
青少年たちが平和の
担い手となるよう、よ
り健全な育成の推進を
図ることを目的に開設
された。

十字架山で 築造130周年記念

9月11日(日) 13時半
から、長崎中地区教会
同のもと浦上小教区に
ある十字架山(長崎市
辻町) 築造130周年を
記念しミサが行われ、
2000人余の信徒が熱
心に祈りをささげた。
(写真) 参加者はミサ
に先立ち、かつての
ように山道に建てられ
た十字架に沿つて「十
字架の道行」を唱えな
がら山を登つた。

十字架山は浦上四番
崩れの後、信仰を守り
通して帰郷できたこと
を記念

福者カミロ・コン スタンツォ殉教祭

9月18日(日) 今年で
22回目となる、福者
カミロ・コンスタンツ
ォ殉教祭が開催され
た。平戸市田平町に
ある焼罪史跡公園で
行つた。今回は台風
の影響による雨天の
ため田平教会が会場
となった。



カミロ神父は1622
年9月15日に焼罪で
火刑に処せられ殉教
した。日本205福者
の1人。ミサは高見
三司教司の共司式
により厳かに執り

行われ、多くの信徒
が祈りをささげた。
説教の中で高見大司
教は、力

触れ、その神との絆
を守るために自分の
命をささげた神父に
倣い、わたしたちも
現在の生活の中で、
絆を守ることを意味
を考へる必要がある、
と呼び掛けた。

さらに、「絆とは愛
であり他人を大切に
思う心である。その
絆の中でわたしたち
は生きていく。東日
本大震災の時に見ら
れたような被災者
がすべてを失いなが
ら互いに助け合い、
他人を思いやる姿。
これは、神が命を
懸けて守り通した
神との絆に通じるも
のではないか」と話
した。

上智大学聖歌隊 50周年演奏旅行

上智大学(東京)の聖
歌隊が今年創立50周
年を迎え、その節目
を記念し、8月27
～31日の5日間、
長崎と五島列島演奏
旅行を実施した。
演奏旅行は、聖歌隊
指揮者の宮越俊光さ
んと聖歌隊顧問の長
崎裕司神父(イエズ
ス会)が引率し、現
役学生と卒業生隊員
30余人が参加。26
聖人記念館や大浦天
堂、浦上教会、被爆
マリア小聖堂など
長崎市内の各地と、
五島列島の諸教会を
訪れた。中町教会と
青砂ヶ浦教会ではミ
サに参加し、教会で
はミサに祈りをささ
げた。地元の信者ら
も前に聖歌を披露、
美しい歌声を届け
た。



青砂ヶ浦教会にて

所属は、「忙しい日常
を離れて自分をゆっ
くり見つめ直したい
と思つた。初めて訪
れた教会、美しい自
然、人との出会いに
よつて、普段はかた
くなになつていく

巡礼の旅を心の糧と
して、これからもキ
リスト者として信仰
の道を歩んでいく
けたらと思つた」と
話した。
また、正指揮者を
務める宮越さんは、
「東京では味わえな
い、地域に根差した
信仰と伝統を長崎
で実感できた。いい
刺激を受けた。聖歌
隊の中には信者で
ない方も多いますが、
きつと同じような
ことを実感したの
ではないかと思つた。
普段は学内で歌う
ことがほとんどな
ので、小教区の中
で歌うという経験
も、彼らにとつて
とてもよかった。こ
んな体験が今後の
活動に生かされるこ
とへの期待を語つた。

同大4年の荒井 恵
さん(22、東京・立
川教会

自分の心が段々と開
かれていくのを感じ
ました。そしてわた
しという存在によつ
て形づくられてい
るのだとあらため
て考えるようになりました。
この

除くことを検討して
いる。その上では
落・亀裂部分の確認
と、状態に合わせた
保全、補強または修
復措置を行つてい
く考え。日常の保
管は、温湿度が管理
できる収蔵庫で保
存。「このよう
な一定の措置を講
じた上で、まずは企
画展示などで多く
の市民の方々に



天使像の取り外し
(9月2日)



同資料館によると、
今後は、天使像のヒ
ビや亀裂の状態を確
認するとともに、被
爆の痕跡について
詳しい調査を行う
必要があり、まず
は付着した泥やカ
ビ、コケなどを取
り除くことを検討
している。その上
では、落・亀裂部
分の確認と、状態
に合わせた保全、
補強または修復
措置を行つてい
く考え。日常の
保管は、温湿度
が管理できる収
蔵庫で保存。「こ
のような一定の
措置を講じた上
で、まずは企画
展示などで多く
の市民の方々に

たえ、信徒を励まし
た。浦上小教区では
この山を大切な祈
りの場所として守
り続けるため、3年
前からミサを行い、
信仰の高揚に努め
ている。

像84体。被爆後に
残つた天使像は現
在の教会敷地内に
設置されているが、
そのうち聖堂に向
かう左側登り口の
石垣の上に据え
た8体はこの9月
2日、長崎原爆資料
館へ引き渡すため
に取り外された。
今回の引き渡しは、
長崎原爆資料館か
らの「国連欧州本
部で展示する、原
爆の惨状を世界に
訴える代表的な被
爆資料」として

旧浦上天主堂外壁の
天使像が長崎原爆
資料館へ引き渡し
た。旧浦上天主堂
の外壁の軒に並ん
でいた天使半身像
84体のうち、被爆
後に残つた天使
像は現在、教会敷
地内に設置され
ているが、その中
の3年間は、祈り
の場所として守
り続けるため、3
年前からミサを
行い、信仰の高
揚に努めている。

たえ、信徒を励まし
た。浦上小教区では
この山を大切な祈
りの場所として守
り続けるため、3年
前からミサを行い、
信仰の高揚に努め
ている。

たえ、信徒を励まし
た。浦上小教区では
この山を大切な祈
りの場所として守
り続けるため、3年
前からミサを行い、
信仰の高揚に努め
ている。

墓地・納骨堂 分譲中

高尾・本原・石神・江平・坂本 他
現地ご案内致します

なが さき せき ちよう
長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明
長崎市梁川町6-17 岩永ビル
☎(095)862-2469

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8436

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二
長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011
24時間営業 FAX(095)843-9896

平成24年度 園児・児童・生徒募集

Open School

小中学校 音楽祭 8:30~9:00 受付
9:00~11:10 音楽祭
11:20~12:00 学校説明会
12:00~12:40 給食試食会
11/19土 園児募集 願書受付 11/1(火)~11/19(土)
入園面接 11月25日(金)
幼稚園 10/14金 9:30~11:30 園公開
11:00~12:00 入園説明会
(小学校児童募集) 願書受付 11/1(火)~11/22(火)
入学検査 11月28日(月) 11月29日(火)
(中学校生徒募集) 願書受付 11/16(水)~12/5(月)
入学試験 12月10日(土) 8時30分~

聖マリア学院 幼稚園 TEL 095-844-2667
小中学校 TEL 095-844-1549
http://seimaria.net/



猪ノ浦の地への最初の入植は1910年(明治43)ころとされる。福見出身の岩谷要作・タヤ夫婦と小瀬良甚助・シヨ夫婦が同じころに入植、約10年後、石口家が大曾から、浦越家が青砂ヶ浦から焼崎を経て、松下家も焼崎から森下家が大曾から、浦田家、川上家も

真手ノ浦小教会 1989年に 2代目聖堂が建立

加わり、現在の基礎になる家族がそろったのは1925年(大正14)ころ。隠れキリシタン時代に五島に入った先祖から、さらに独立する形で入り作り上げた共同体といえる。

戦前猪ノ浦に聖堂は無く、初代聖堂は1947年(昭和22)に建立、山口愛次郎大司教によって祝別された。月に一度、大曾小教会の神父がミサをささげていたが、1975年(昭和50)1月20日大曾小教会から独立、真手ノ浦小教会に併合された。

初代聖堂は老朽化のため、1989年



記憶をたどると、1927年(昭和2)ころ、海岸から200メートル程度の山中に平天井の小さな教会に始まる

土井ノ浦小教会 有福教会 山中の小さな教会に始まる

1952年(昭和27)ころ、終戦後の厳しい状況の中だったが、交通の便の良かった場所、今の有福教会が完成した。当時の信徒数は、100人程度だったと思われる。

現在、若い方々の働く場所がなく、地域の過疎化が進む中、信徒数は45人余。高齢化が進み、教会を維持管理するのが難しくなっている。

先祖から受け継いだ信

お水帳によると、大平教会信徒の祖先は、ほとんどが西彼外海地区からの移住者である。1893年(明治26)に最初の教会がペルー師、ガルニエ師の献金によって献堂された。その後、シロアリと台風被害で1895年(明治28)現在の場所に移転。現教会は1958



大平教会 守り伝えてきたもの

年(昭和33)に献堂祝別された。

桐ノ浦のガスパーと作が「神父発見」を五島に知らせたところ、大平には100人余りのキリシタンがいた。桐係りだったころから、大平の生活の中心には常に教会があった。

ペルー師、ヒューゼ師、そして大平教会で唯一の主任司祭、清水佐太郎師。小さい集落ながら、他地区に負けない地域力があつたのはこれらの司祭のおかげである(古老の話)。清水師引退の後、1965年(昭和40)土井ノ浦小教会に編入した後の、われわれの生活の中心もやはり教会であつたはずである。そして、これからも…

8月29日、急性心不全のため帰天。61歳。

通夜は8月31日に新上五島町の自宅で、葬儀・告別式は9月1日、汐留神父(太田尾教会)と司祭団の共同司式のうちに多くのシスター、信徒に見送られながら桐教会で行われた。



マリア
汐留フミさん
(汐留義和師実母)

突然の訃報に遺族は深い悲しみにあつたが、遺品の整理の時、香台から生前書き残したであろう祈りの意向のメモがたくさん出てきたという。

「母は心配性でしたので子供たちに必要な恵みがあるように、意向を書いて毎日祈っていたのです。苦勞をかけたと思うほどにこの愛は心にしみ入るようです。今は、母の永遠の安息を祈る時、目を閉じると母のほほ笑む姿が見え、耳を澄ますと母の優しい声が聞こえてきます」(汐留神父)。

第45回カトリック長崎大司教区幼稚園教職員夏期研修会(教区幼稚園協

会主催)が8月23日、長崎市文教町にある純心女



子学園聖堂で開催され、約150人が参加した。

講師は愛媛県西条市に通勤「のらねこ学か」を自費で設立し、障害のある人たちに癒やしの空間を提供する塩見志満子先生。「絆ーみんなちがって みんな

いいー」のテーマで熱意あふれる講演をし、ありのままの自分を語るのだから必要ないとマイクを使わず、言葉をつづつ丁寧に語っていった。人と人との絆の大切さが浮かび上がってくる、波乱万丈の人生の話聞き、聴衆の中からはすすり泣きの声が聞こえた。

参加者は、「人は悲しみに会ふと人と社会を憎む、絶望のふちに落ち込む、しかし立ち直れる。そんな確信を感じる話だった」「毎日幼い子どもたちを相手に教育に励む若い先生たち。人として先生として、命を結び合わせる絆の大切さを伝えていってほしい」と、感動と勇気、励ましを得た研修会について感想を話した。



2014年に開催される長崎教区代表者会議(教区シノドス)に向けての研修・説明会が、9

2014年教区シノドスに向けて 各地区で研修会始まる



月4日(日)14時から中町教会信徒会館で長崎南地区小教会を対象に開催、約60人が参加した(写真)。

南地区評議会は、6月の定例会でも教区評議会事務局長の小瀬良明師による説明会を設けたが、その後の資料の充実が進み、教区評

議会は全7地区で説明会を実施することになり、同地区が最初の開催となった。

説明はカトリックセンタの下窄英知師が担当。配布資料に沿って、まず高見三明大司教の司牧モットー「参加し、交わり、宣教する」について話があった。それに続き、例えば第1段階のテーマ「いただいたお恵みと現状の分かち合い」では参加することが強調され、教会から遠ざかっている人たちが、さまざまな理由で教会に来ることができない人への呼び掛けが大事である、とシノドスにおける小教会での進め方を説明した。

その後の質疑応答では活発な意見が寄せられ、特にアンケートに対する質問が数多く出された。

参加者は「真摯な態度で臨んだ参加者と担当者の丁寧な説明で有意義な1時間半だった」と語った。研修説明会は佐世保・

ワールドユースデー2011 長崎から青年7人が参加 ―スペイン・マドリッド―

現地時間8月16(日)、ワールドユースデー(WYD)2011マドリッド本大会がスペインのマドリッドで行われた。日本から330余人の参加があり、長崎教区からは青年7人(浦上3、大野3、俵町1)、司祭3人、また高見三明大司教が同



▲写真右2枚は徒歩巡礼の様子。巡礼路には時折、祈りや願いごとを記した巡礼者のしるしであるホタテ貝が見られた。

信仰は自分にとどめず、さらに伝えていくものであることの認識を深めているように見えた。

本大会前から巡礼に参加した青年たちは「教区での日々」と呼ばれる時間を過ごしたが、今回日本巡礼団は8月7日から15日までサンティアゴ教区の協力を得て、ポルトガルルートに当たるトゥイの街から12使徒の1人、聖ヤコブが宣教したとされるサンティアゴ・デ・コンポステーラまでの100kmの徒歩巡礼を行った。

神と出会う イエス・キリストと出会う 自分と出会う カトリック通信講座のご案内

どなたでも、いつからでも、どの講座でも、ご自分のペースでご受講いただけます。

わかりやすく書かれたテキストを読んだ後、解答はがきの設問(3～4問)に答えを書き込み返送する方法で通信を行います。さまざまな理由で教会に行くことができない方や、受洗後、より学習を深めたい方に最適です。「幸せな結婚」は結婚準備講座としても活用いただけます。

全7講座
T001 キリスト教とは T002 聖書入門〔I〕 T003 キリスト教入門
T004 神・発見の手引 T005 聖書入門〔II〕 T006 幸せな結婚
T007 生きること・死ぬこと

受講料 T001～T004 4,500円(教材費・税込) T005～T007 5,000円(教材費・税込)

お申し込み方法
郵便振替用紙に講座名・講座番号(T001～T007)をご記入の上、下記にお振り込みください。

振替口座番号：00170-2-84745 加入者名：オリエンズ宗教研究所

詳しくはホームページ(<http://www.oriens.or.jp/>)、通信講座の携帯サイト(<http://www.oriens.or.jp/mobile/>)、パンフレットをご覧ください。(ご希望の方にはパンフレットをお送りいたします)

お問い合わせ・お申し込み オリエンズ宗教研究所 カトリック通信講座
〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 Tel: 03-3322-7601 Fax: 03-3325-5322
e-mail: jimu@oriens.or.jp URL: <http://www.oriens.or.jp>

800キロの奇跡 わたしのサンティアゴ巡礼②

川上健治(大野教会)



5月12日(木) フランス、パリのモンパルナス駅からTGVにてバイヨンヌへ。ローカル線に乗り換え、フランスルート

の出発地サン・ジャン・ピエ・ド・ポーに到着。やっと出発地に立った。巡礼の手続きを済ませアルベルゲ(宿泊施設)に行くと満室お断り、仕方なくオテル(ホテル)に泊まる。偶然日本人に出会い一緒に夕食、やっとまともな食事にあり付いた。

13日(金) 風邪気味で咳が止まらない。小雨の中、早朝からオリソンまで7km歩く。14日(土) 霧と雨の中、

標高1300mピレネー山脈を越える。20.1km歩きロンセスバージェスへ到着。ここは、最初の難所霧で道に迷う人が多い所だ。途中、韓国女性一人旅2名とすれ違う。迷わず無事に越えられたことに感謝し、ミサにあずかり祝福を頂く。

15日(日) 昨夜のミサで出会ったオーストリア女性に「杖を貸しましょう」と声を掛けられしばらく連れ立って歩く。21.5km歩きズビリーへ到着。この日家内はN神父さまのお見舞いに行き、無事に帰国するようにミサを頼んだとか。奇跡を信じて歩く決意を新たにします。

道を1人黙々と歩いてみると、後から追い付いてきた人が、「ボン・カミーノ(よい巡礼を)」と声を掛けて行き過ぎる。わたしは、巡礼者の標(しるし)のホタテ貝とヒョウタンを付けたザック10kgを背負い、3kgほどのウエストポーチを腰に付け、手には途中で買った杖とロザリオを持って祈りながら歩く。日中は暑いので、早朝6時ごろから歩き始める。

※TGV フランス国鉄が運行する高速鉄道の車両および運行形態。7月29〜31日、フォコラーレの夏の集い「マリアポリ」が佐世保青少年の天地で開催され、九州、関東、関西、韓国など各地から1300余人余が集まった。初日は高見三明大司教も訪れ、講話を行った。テーマは「心をつないで」。フォコラーレの一致の精神を生きながら、苦しみの中でも神の愛に信

「大切」と話した。参加者は「相手の感情に焦点を合わせ寄りそうこと、相手をそのまま受け入れることは難しいが、共同生活の中でそのことが訓練できればと思う」と「シスター、シスター」と言っただけでめられることに安心をしてはいけなという気持ちをもった」と感想を語った。

「マリアポリ」開催 7月29〜31日、フォコラーレの夏の集い「マリアポリ」が佐世保青少年の天地で開催され、九州、関東、関西、韓国など各地から1300余人余が集まった。初日は高見三明大司教も訪れ、講話を行った。テーマは「心をつないで」。フォコラーレの一致の精神を生きながら、苦しみの中でも神の愛に信

頼して福音を實踐し、隣人をゆるすことができた体験を証し、また今の瞬間を生きる大切さが参加を通して深められた。ワークシヨップでは「千の風になつて」が手話で、「故郷」がコーラスで東北の方々にささげられ、手芸品の売り上げは義援金として東日本大震災被災地へ送られた。参加した若者からは、「今日からは新しい日が



「いのちに寄りそい、ともに生きる」

教区修女連研修会

8月28日、2011年度長崎教区修道女連盟研修会が長崎市上野町の長崎信愛幼稚園で行われ、約100人が集まった。初めに指導司祭・三村

これは、2014年の福江小教区創立100周年に向けた取り組みで、記念講演会は今回で4回目となる。キリシタン時代―神と隣人へのご大切を生きた人々―をテーマに、90分にわたり、宣教・発展期から禁教期を経て復活期に至る当時の宣教師や信者の働き、さらにその内面に光をあてた講演が行われた。

現代を生きたわたしたちが、キリシタン時代の16〜18世紀から伝えられた教会の豊かな「命」の中に生かされているということに、あらためて気付かされる貴重な機会となった。

「いのちに寄りそい、ともに生きる」と題し、東京自殺防止センター創設者の西原由記子さんの講話があった。講師は「あなたにもできる自殺防止」について語り、「人は1人で生きることができない存在で、孤

立化が人を自殺に追い込んでしまつたので、人間的なつながりが必要。重要なのは「葬儀」について学ぶ機会を得た。参加者からは「これまでよく分かってなかったの、少し

「はつきり言っておくが、もし、それを見つけたら、迷わずにいた99匹より、その1匹のことを喜ぶだろう」(8月9日の福音スぺインで行われたワールドユースデーに先駆けて、8月8日〜12日の5日間、トウイからサンティアゴ・デ・コンポステーラまでの約100kmの道のりを徒歩巡礼しました。各自約10kgある荷物を背負い、強い日差しの中での過酷な巡礼でしたが、大変さの中にも大きな恵みを感じることができた巡礼であったと思います。

巡礼初日にハプニングは起きました。宿となる体育館にたどりつかない15人程の人がいたので、(長崎教区の司祭1人

「はつきり言っておくが、もし、それを見つけたら、迷わずにいた99匹より、その1匹のことを喜ぶだろう」(8月9日の福音スぺインで行われたワールドユースデーに先駆けて、8月8日〜12日の5日間、トウイからサンティアゴ・デ・コンポステーラまでの約100kmの道のりを徒歩巡礼しました。各自約10kgある荷物を背負い、強い日差しの中での過酷な巡礼でしたが、大変さの中にも大きな恵みを感じることができた巡礼であったと思います。

「はつきり言っておくが、もし、それを見つけたら、迷わずにいた99匹より、その1匹のことを喜ぶだろう」(8月9日の福音スぺインで行われたワールドユースデーに先駆けて、8月8日〜12日の5日間、トウイからサンティアゴ・デ・コンポステーラまでの約100kmの道のりを徒歩巡礼しました。各自約10kgある荷物を背負い、強い日差しの中での過酷な巡礼でしたが、大変さの中にも大きな恵みを感じることができた巡礼であったと思います。

福江小教区創立100周年に向けて 片岡瑠美子シスターの記念講演会



9月4日(日) 福江教会において、長崎純心聖母会の片岡瑠美子修道女(長崎純心大学教授)によるキリシタン時代についての講演会が下五島地区主催で行われ、各地から多数の信徒らが参加した。

これは、2014年の福江小教区創立100周年に向けた取り組みで、記念講演会は今回で4回目となる。キリシタン時代―神と隣人へのご大切を生きた人々―をテーマに、90分にわたり、宣教・発展期から禁教期を経て復活期に至る当時の宣教師や信者の働き、さらにその内面に光をあてた講演が行われた。

現代を生きたわたしたちが、キリシタン時代の16〜18世紀から伝えられた教会の豊かな「命」の中に生かされているということに、あらためて気付かされる貴重な機会となった。

「いのちに寄りそい、ともに生きる」

「いのちに寄りそい、ともに生きる」

「いのちに寄りそい、ともに生きる」

「いのちに寄りそい、ともに生きる」

「いのちに寄りそい、ともに生きる」

「いのちに寄りそい、ともに生きる」

「いのちに寄りそい、ともに生きる」



「いのちに寄りそい、ともに生きる」

「いのちに寄りそい、ともに生きる」

「いのちに寄りそい、ともに生きる」

「いのちに寄りそい、ともに生きる」

「いのちに寄りそい、ともに生きる」

「いのちに寄りそい、ともに生きる」

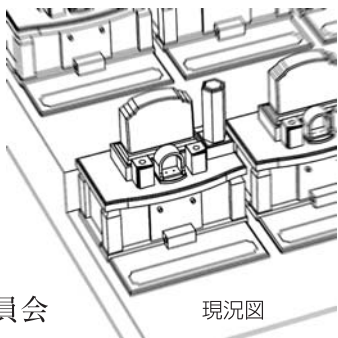
「いのちに寄りそい、ともに生きる」

「いのちに寄りそい、ともに生きる」

「いのちに寄りそい、ともに生きる」

飽の浦教会 墓地分譲

場所：長崎市大谷町 262-1 ガーデンテラス長崎ホテル隣接
眼下に長崎の港と街並みを見渡す明るい丘
総額160万円 墓碑、納骨室(総御影石)、彫刻費など含みます。
●永代使用権付き墓地 ●占有面積は 間口 1.6m 奥行き 1.5m
●墓地内祭壇(約40㎡)で年2回合同追悼ミサをささげます。
即納骨可 お問い合わせ先：カトリック飽の浦教会墓地管理委員会
島田義美 TEL 095-861-0982 携帯 090-5948-8838
(有)長崎大理石工業 社長 ヨハネ 濱本直行
TEL 095-839-0374
本社 長崎市つづじが丘 5-1-15 加工工場 諫早中核工業団地



現況図

カトリック長崎大司教区認定53ヶ所「五島巡礼」
福江島・嵯峨島・久賀島・奈留島・中通島・
キリシタン洞窟 そして、野崎島の野首天主堂へ
日程 2011年12月13日(火)〜17日(土)4泊5日
集合 13日(火)07:15 解散 17日(土)17:30
※集合・解散場所は長崎港大波止ターミナル1階
宿泊地 福江島(1泊)若松島(1泊)中通島(2泊)
定員 20人(最少催行人数15人)
1人 77,500円(長崎発着)
往復ジェットフォイル、島内交通費、
4泊(5昼食、4夕食、4朝食)、ガイド料、五島巡礼手帳、入場料
旅行主催 九州商船株式会社
長崎県知事登録旅行業第2-46号(社)全国旅行業協会会員 国内旅行業取扱管理者 野村昌史
申し込み締め切り 2011年11月15日(火)
問い合わせ・申し込み先 九州商船 営業部
〒850-0035 長崎市元船町16-12
(TEL)095-828-3125 (FAX)095-823-2664
協力 NPO法人 長崎巡礼センター